

*** 今日の健康(月)***

< 水痘と予防接種 >

(1)水痘(すいとう)の概要

水痘は、水痘ウイルスによって引き起こされる感染症で、約 2~3 週間の潜伏期の後、発熱、発疹を主症状とする急性熱性ウイルス感染症です。発疹は発症後の数時間は斑点状紅丘疹、その後3~4 日間は水疱性で、最後は痂皮(かさぶた)となり治癒します。水痘ウイルスは感染者の水疱内容や気道分泌物に含まれ、直接接触、飛沫感染あるいは空気感染により人から人に非常に強い感染力を有します。

水痘ウイルスは他のヘルペスウイルスと同様に、罹患後も潜伏感染を続け免疫が低下するような状態において帯状疱疹として発症することがあります。通常水痘は軽症で合併症もまれですが、免疫不全状態やその他の基礎疾患を有するハイリスクグループでは重症化し遷延することがあります。このため水痘ワクチンはハイリスクグループの感染発病防止を目的に開発され、健康小児によりもハイリスクの者が中心に接種されてきたという経緯があります。

(2)予防接種

我が国で開発された水痘(岡株)生ワクチンは、我が国のみならず欧米やその他の国々で、その有効性、安全性が認められています。1 歳から接種可能です。

一般的にみられる副反応 健康小児、成人ではほとんど副反応は認められません。接種後 1~ 3週間ごろ、ときに発熱や発疹が発現することがありますが一過性で、通常数日中に消失します。まれに接種直後から翌日に過敏症状として発熱、蕁麻疹、紅斑、掻痒、発熱等が現れることがあります。また、まれに接種部位に発赤、腫脹、硬結等があらわれることがあります。

(3)予防接種の効果

接種後の抗体産生は健康小児では95%以上に認められます。

ワクチン接種後に水痘に罹患した場合、6~12%に水痘症状が認められていますが、発疹数は少く、水泡形成にまで至らず、発熱を伴わず、痒みなどが少く、経過が短く軽症に経過します。

現在までに最長 20 年の追跡調査がなされていますが、感染防御効果の持続性は優れています。

水痘の人と接触後 48 時間以内にワクチン接種すれば抗体産生が発病までに間に合うとされています。

